

風の輪

成人式を考える

1月21日、法人内の知的障害者施設「風の子そだち園」

「ワークセンター豊新」「風工房」に通所する人たちのうち、今年20歳になる3人を祝う成人式が催されました。

会場には、法人内施設の利用者の方たち、その保護者のみなさん、そして市議会議員さんを始めとする多数の来賓の方々をお迎えして、総数150人近い人たちが祝福に参加してくれました。

成人式に招かれた3人の方たちは、それぞれ衣装をこらしてうれしそうな表情で、これからの人生の希望などの発表をおこない、会場のあたたかい拍手を浴びていました。

私たち施設では、毎年こうした成人式



を独自で行なっております。暦の上で「成人の日」の祝日があり、各地で公の成人式が盛大に行なわれていますが、そこでは知的障害のある人たちがどれだけ参加しているのでしょうか。晴れ着姿で集ま

ある一人のお母

さんの言葉から

「風の子そだち園」ができた頃に、ある一人のお母さんが「成人式と聞くと、もう自分の子が20歳になったんやと思うと辛い」という話を

3人の新成人が取り受けた花束を、この成人式で聞くと、もう自分の子が20歳になったんやと思うと辛い」という話を

風の子そだち園

園長 松村昌子

る式場に、その年に成人を迎えた知的障害のある人の姿を見ることは、ほとんどないと思います。

また、それは当然のように理解されてきたのではないのでしょうか。

母親の言葉は私の耳から離れませんでした。

たとえ公の成人式に行けなくても、施設の中で成人のお祝いをしようではないかという事で始めて20年近くにな

成人式は大切な社会の行事

成人式は人生の節目として大切な社会の行事だと思いますが、知的障害のある人たちにとっても同じことです。ひきこもって当施設の成人式にさえでられない人もいます。

ります。

施設の成人式では本人だけでなく、これまで苦労されてきた両親も共に成長を喜ぶ言葉を添えました。また、本人がこんなにも変化し、元気になってきたことを、職員がエピソードもまじえて発表し、他の保護者の方々への励ましにもなりました。

社会にある偏見や差別、時には自分の中にさえある引け目と闘いながら、それでも子どもを理解してここまで育ててこられたご両親や、周りの人になかなか理解してもらえず、苦労してきたご本人自身に、よくここまで頑張ってきたこと、心から拍手を送りたいと思います。

しかし、どんなに障害があっても意志も感情もある一人の人間です。希望をもって次の人生を歩んでいくステップとして成人式を大事な行事として考えていきたいと思っています。また、社会全体にそのような理解が広まることを心より願っています。